

2004年を振り返って

2004年は災害の年であった。

過去最高の10個の台風が日本に上陸して多くの被害を与え、梅雨前線の活動は新潟・福島、福井等に集中豪雨をもたらし、甚大な被害を与えた。さらに10月には新潟県中越地震が発生し、10年前の阪神・淡路大震災以来の大災害となった。

2004年の日本は、相次ぐ災害により広い地域で被害を受けた。そして地球レベル

での異常気象が話題として相上している中で、今後このような気象状況にどう対応していくかという課題が、改めて突き付けられた年であったともいえよう。

清水寺貫主が2004年を振り返り、「災」という漢字を書き上げた感覚は、国民の実感そのものであろう。

2004年の台風上陸は6月の4号に始ま



▲1年を振り返って「災」を書く清水寺貫主〔写真提供／読売新聞社〕

る。その後、時をおかず台風6号が上陸。梅雨末期の7月には前線性集中豪雨が発生し、新潟・福島では死者16人、浸水被害約8400棟。福井では死者4名、浸水被害約1万3700棟という大きな被害をもたらした。さらにその後相次いで台風10号、11号、15号、16号、18号、21号、22号、そして死者95人、住宅床上・床下浸水約5万5400棟という2004年で最も大きな被害をもた

らした台風23号が日本列島に上陸した。台風16号、18号、23号は上陸後最低気圧945～955hPaを記録しており、気象条件により台風が大変強い勢力を維持したまま上陸し、大きな被害を生む結果となった。

2004年は、集中豪雨の頻発傾向がより明らかになった年であり、1時間雨量、日雨量の記録を更新した全国のアメダス観測地点はいずれも100箇所を超え、またこのよ

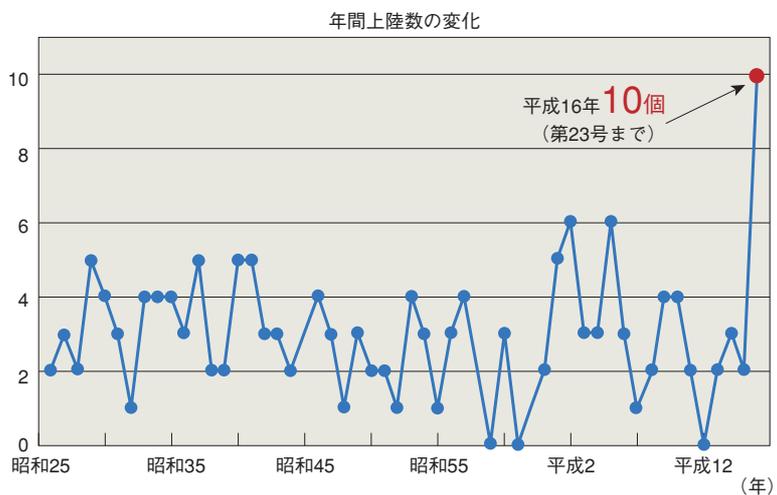


Assessment of Disaster Damages in 2004



台風の襲来が非常に多かった平成16年

過去最高の10個の台風が日本に上陸（例年の4倍）し、各地で浸水被害が発生



【参考】 台風の平均発生個数：26.7個*
 台風の平均上陸個数：2.6個*
 昨年までの最高上陸個数：6個（H2、H5）
 ※ 1971年から2000年までの30年間の平均値

日本に上陸した台風経路図



うな集中豪雨の頻発により2347件という過去最高の土砂災害が発生した。

異常気象は海岸部でも大きな被害を発生させた。特に台風16号では瀬戸内海沿岸に異常潮位が発生し、沿岸部各県で約4万4000棟が浸水。また、高松港では昭和36年の第二室戸台風の最高潮位を一気に52cmも上回り、2.46mを記録した。

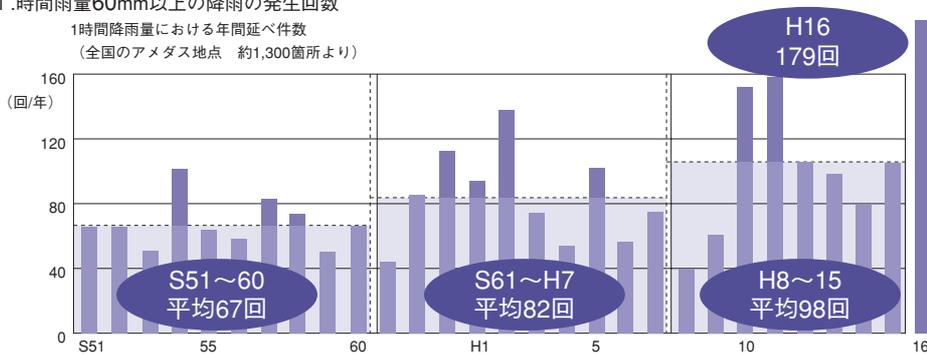
台風23号では高知県室戸沖で国内観測史上最高の波高を観測し、このため、室戸市内の海岸堤防が約30mにわたり破壊される結果となった。

この台風23号では、直轄河川の破堤被害も発生。これまで中小河川での災害が多かったが、兵庫県北部の円山川、その支川の石川の2箇所計画高水位を超え、越水破堤した。

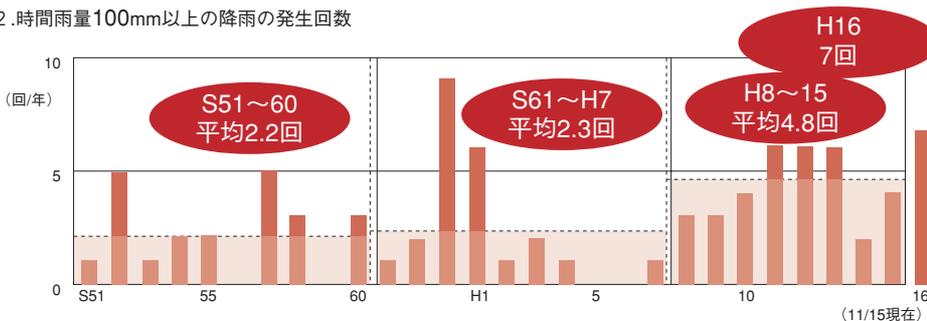
集中豪雨が頻発した平成16年

1. 時間雨量60mm以上の降雨の発生回数

1時間降雨量における年間延べ件数
(全国のアメダス地点 約1,300箇所より)



2. 時間雨量100mm以上の降雨の発生回数



平成16年に1時間雨量の記録更新をした観測地点数 (2004年1月1日~11月4日)



平成16年に日雨量の記録更新をした観測地点数 (2004年1月1日~11月4日)



Assessment of Disaster Damages in 2004



10月には新潟県中越地方を大地震が襲い犠牲者は46人を数え、従来なかったような相次ぐ余震が発生したため、避難者は震災直後10万人を超える事態となった。この新潟県中越地震は、阪神・淡路大震災が「都市部の震災」といわれたのに対し「地方部の震災」といわれ、孤立地区が多数発生したことも大きな特徴である。

被害の視点から見ると、犠牲者の多くが

高齢者であったことも2004年災害の大きな特徴としてあげられよう。少子高齢化が進むわが国においては、このような高齢者等災害時要援護者を災害からいかに守るかが大きな課題としてクローズアップされた。

自然災害に対し、限りある財政の中で効果的かつ具体的施策の実践を行い、国民にとって安全で安心な社会の形成を図ることが、今強く求められている。



Assessment of
Disaster Damages in
2004



平成16年全国の災害死者状況

平成16年中に災害による
死者が発生した道府県

